

【農業の持続的な発展に関する施策②】

需要構造等の変化に対応した
生産・供給体制の改革

需要構造等の変化に対応した生産・供給体制の改革(その1)

需要等に応じて国産農畜産物を生産・供給するとの発想に基づき、強い農業を実現するため、

- 米政策改革の着実な推進
- 畜産・酪農の競争力の強化
- 今後の需要拡大が期待できる園芸作物、有機農産物、薬用作物などについて供給力を強化

現状と課題

○ 米

(現状)

- ・ 米の消費量は過去50年間にわたり一貫して減少傾向。
※ 1人1年当たり消費量: 118.3kg(昭和37年)→56.9kg(平成25年)
- ・ 消費に占める中食・外食などの業務用米の割合は、主食用の約1/3(平成25年度)。
- ・ 配合飼料原料として、飼料用米を家畜の生理や生産物に影響を与えることなく利用できる潜在的な需要量は相当程度存在。

(課題)

- ・ 行政ルートにより、生産数量目標を個々の農家に配分しているが、現場に近づくほど一律的な配分とならざるを得ないため、生産数量目標と実際の販売実績・販売力とのギャップが発生。

施策の検討方向

○ 米政策の見直し

平成30年産米からを目途に、行政による生産数量目標の配分に頼らないで、農業者や集荷業者・団体が、自らの経営判断や販売戦略に基づき、需要に応じた生産が行われる状況となるよう、

- ・ 主食用米以外の作物の本作化の推進
 - ・ 中食・外食用等のニーズに応じた生産と安定取引の推進
 - ・ 県産別、銘柄別のきめ細かい需給・価格情報、販売進捗・在庫情報の提供
- 等の環境整備を行う。

(参考)米政策改革の概要(平成25年12月10日農林水産省・地域の活力創造本部決定)

- 需要に応じた生産を推進するため、水田活用の直接支払交付金の充実、中食・外食等のニーズに応じた生産と安定取引の一層の推進、きめ細かい需給・価格情報、販売進捗・在庫情報の提供等の環境整備を進める。
- こうした中で、定着状況をみながら、5年後を目途に、行政による生産数量目標の配分に頼らずとも、国が策定する需給見通し等を踏まえつつ生産者や集荷業者・団体が中心となって円滑に需要に応じた生産が行える状況になるよう、行政・生産者団体・現場が一体となって取り組む。

需要構造等の変化に対応した生産・供給体制の改革(その2)

現状と課題

○ 畜産・酪農

- ・ 配合飼料価格の上昇や経済連携が進展する中、高齢化や離農が進み、農家戸数や飼養頭数が減少するなど、生産基盤の弱体化が懸念。
- ・ 収益性を向上させることにより、競争力の強化を図る必要。

○ その他農産物

- ・ 我が国の人口が減少していく中で、品目毎の需給状況等に応じ、新規需要の掘り起こしや国産農産物の輸入品からのシェア獲得、新たな国内需要に対応した農産物の生産・開発・普及、輸出促進が必要。

◇需要拡大が期待される品目例

【野菜】

加工・業務用野菜の需要が増大している中、国産シェアは減少しており、輸入品からのシェア獲得が必要。

【果実】

国産消費量が減少している中、カットフルーツ、ストレートジュースなど新規需要の掘り起こしが必要。

【花き】

輸入量が増大している中、国産花きの優位性を活かす生産流通体制が必要。

【有機農産物】【薬用作物】

国産需要の拡大が期待されるものの、生産体制が脆弱。

等

施策の検討方向

○ 畜産・酪農の競争力の強化

- ・ 畜産クラスター(地域ぐるみの高収益型畜産体制)の構築による収益性向上、和牛受精卵移植・性判別精液の活用等による和牛の生産拡大と生乳供給力の向上を推進
- ・ 草地整備、飼料用米等の水田飼料作物の生産・利用の拡大、イアコーン^{*1}、エコフィード^{*2}等の国産濃厚飼料の増産・利用拡大対策の強化、放牧の推進等による国産飼料に立脚した畜産を確立
- ・ 畜種ごとの特性に応じた対策による経営安定

○ 需要に応じた生産・供給改革

- ・ 需要構造の変化等を踏まえて基本計画の中で策定する生産努力目標等の実現に向けて、国産農産物の生産・供給体制の改革を推進

【野菜】

需要が拡大しているカット野菜等の加工・業務用野菜について、専用品種、機械化一貫体系、作柄安定技術の導入や物流の合理化等により生産・流通体制の強化を推進

【果実】

海外も含む多様なニーズに対応した優良品目・品種への転換や加工用果実の低コスト生産・取引を推進

【花き】

花きの振興に関する法律に規定する基本方針(平成27年3月策定予定)に基づき、国際競争力の強化に資する新品種の育成加速化、国産花きの周年安定生産体制、輸出も見据えた流通体制の整備を強化

【有機農産物】

多様な販路の構築とそれに対応したネットワークの構築を推進
有機JAS認証の取得の推進等を通じ、生産の更なる拡大を促進

【薬用作物】

実需者とのマッチングの下、栽培技術の確立を推進

等

*1 イアコーン : トウモロコシの雌(し)穂(すい)。

*2 エコフィード : 食品残さ等を有効活用した飼料のこと。環境にやさしい(ecological)や節約する(economical)等を意味するエコ(eco)と飼料を意味するフィード(feed)を併せた造語。